

## 新型コロナウイルスに負けない地域活動 ～地域活動をしている、みなさんへ～

地域活動は、行政サービス等には代えることのできない、価値ある助け合いの活動です。しかし、誰もが当事者になり得るこの感染症は、自分への感染だけでなく拡げてしまう側になるリスクもあります。助け合いの活動で命を落としてしまうようなことがないように、できる限りの対策をとった上で活動を再開していきましょう。

### 【①これまでの活動を三密を避けた形式にして再開する】

「マスクの着用」「換気をする」「2m以上離れた座席にする」「食事や歌は控える」「1回あたりの人数を減らす」等、対策を講じた形式にしましょう。

※参加者の氏名や電話番号等を控えておき、万が一の時に備えてください。

### 【②新しい活動に取り組む（既存の活動の充実・発展）】

人と人とが直接交流しなくてもできる「支え合いの方法」を検討し、内容を変更した形で本来の活動目的を達成しましょう。また、これまで時間がなくて取り組めずにいたことに取り組むのもOK。どちらも新たな可能性がうまれるかもしれません。

<活動例>

- ★電話、FAX、手紙、インターネット媒体等の**非接触型の方法**に変更した活動にする。
- ★**広報紙の発行**に力を入れる。このような時だからこそ「正しい」「分かりやすい」「身近な地域」の情報を必要としている人がいます。
- ★現在、どのような生活上の困りごとがあるか、**ニーズを把握**するための活動をする。

#### Q 再開を早く望む声と控えた方がいいという意見に分かれていて、判断に迷います…

A どんなんに対策をしても残念ながら感染者が出てしまうことがあるかもしれません。そのような状況の時に「何らかの対策を十分に行った上でのこと」なのか、そうではなかったのかでは違ってきます。任意団体の活動だからこそ、お互いを責めたり、外部から非難されたりすることがないように十分な対策をとりましょう。その視点を踏まえた上で、従来とは違う方法での検討も含めてメンバー間で話し合しましょう。

#### Q 地域活動はコロナ禍でも必要な活動なんでしょうか？

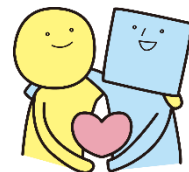
A 地域活動自体は、医療や福祉サービスではないので、生命に直接的に影響があるものは少ないと思われれます。しかし、新型コロナウイルスの影響により、児童虐待、DV、高齢者の閉じこもり等生活課題を抱えた人が増加しやすい状況にあります。それらを**予防するための活動**や必要な支援が届かずにいる人に情報を届ける等、孤立しがちな地域住民に対して、住民同士の支え合いの活動で支援していくことは、誰かの生命や健康を守ることにつながります。

#### Q インターネット媒体を使った活動に変更しなければいけないのでしょうか？

A 直接人と会わないことは、その分感染リスクが減ります。その点ではインターネットの活用は有益ですし、活動の幅を広げる意味でも様々な可能性を秘めています。しかし、インターネットの環境は人によって様々です。インターネット自体に抵抗がある、利用できない状況にある人への配慮は必要です。**インターネットが全てではない**ことに留意し、電話やFAX、手紙等なじみのある媒体も同時に活用する等配慮しましょう。

一緒に今後の活動を進めて  
いきましょう！

お気軽にご相談ください



←動画版